

いすゞの里だより

第二十八号
冬を呼び寄せる歌うたもズ

秋になるとキーキー、キチキチキチと甲高い鳴き声が聞こえてくるようになります。これはモズの鳴き声で、『モズの高鳴き』と呼ばれています。モズは夏の間は涼しい地域で過ごし、秋になると平地にやって来る、秋の訪れを知らせる鳥です。秋になるとそれぞれに縄張りを持ったため、木の梢など見晴らしの良いところで鳴いて縄張りを主張します。

モズに関することわざで『モズの高鳴き七十五日』というものがあるそうです。モズの高鳴きが聞こえてから七十五日もすると、霜が降り始めると言われています。昔の人はモズの高鳴きを聞いて、冬支度を急ぐ目安としていたのでしょう。それくらいモズは人のくらしと密着しており、秋冬の使者としてなじみの深い鳥と言えるでしょう。そういえば童謡『ちいさいあき』の一節に、『よんでる口笛モズの声』というのもありましたね。

もうひとつよく知られる言葉に『モズのはやにえ』というものがあります。縄張り争いが盛んにおこなわれている頃、鋭くとがった枝先などに虫やトカゲが突き刺してあることがあります。昔は空き地に張り巡らせた有刺鉄線があちこちにあったので、今よりもモズのはやにえを見かける機会が多かったかもしれません。モズのはやにえは謎が多く、なぜ獲物を串刺しにして食べずにおくのか様々な諸説があります。冬用の食糧貯蔵、縄張りの印などなど。いずれにせよ刺したまま食べもせず、放置して干物になっていることがほとんどのようです。食べないなら捕まえない方がいいのに！とも思いますが、かわい顔して肉食系のモズは、動くものを見つけたら欲望が抑えきれず、獲ったはいいけどお腹がいっぱいだからとりあえず枝に刺しておくのではとも言われています。もう一度言います。かわい顔して肉食系のモズ。小型猛禽類とも言われるだけあって、虫やトカゲだけではなく、なんと鳥さえもターゲットにすることがあります。滅多にお目にかかれなくなったモズのはやにえですが、もしも万が一鳥やネズミといった大物が突き刺さっていたら、さきやキョッすまじいでしょうね。

